

会議出席報告

平成 22 年 10 月 4 日

執筆者氏名 竹村仁美（若手アカデミー分科会委員）

※同一会議に複数の方が派遣されている場合は、派遣者の連名でも結構です。

1 会議概要 IAP と夏季ダボス会議との共同主催による若手科学者のための国際会議

1) 名称

(和文) 第 3 回 IAP 若手科学者会議 2010

(英文) 3rd IAP Conference for Young Scientists-2010

2) 会期 2010 年 9 月 12 日～16 日 (5 日間)

3) 会議出席者名

中村征樹、竹村仁美

4) 会議開催地

中国・天津

5) 参加状況 (参加国数、参加者数、日本人参加者)

約 40 国、60 名程度、2 名

6) 会議内容 (HP 掲載を有効にするため、まずは概要、要点をお書きください)

・日程及び会議の主な議題

9 月 12 日 若手科学者歓迎アクティビティ及びディナー

9 月 13 日 産学連携について、企業人を交えての意見交換、その後世界経済フォーラムに参加。

9 月 14 日 午前：カナダの産業大臣、中国の科学技術大臣、世界経済フォーラムマネージング・ディレクター、ユネスコ職員と若手科学者との会合

午後：ヤンググローバルリーダーズとヤングサイエンティスト（若手科学者）との合同会議
夜：天津市主催晩餐会

9 月 15 日 終日、世界経済フォーラムに参加。

9 月 16 日 若手科学者の感想報告、総括会議。

若手科学者のためのフェアウェル・ランチ

若手科学者ツアーアンドシンポジウム（天津大学・南海大学）

・会議における審議内容・成果

世界経済フォーラムに参加していたグローバルヤングリーダーを始めとする方々との交流により、経済と科学との相互理解に努めた。社会と科学、経済と科学との関係を考えることにより、産学連携の在り方及び課題について経済界にいる者と科学者たちが改めて考える良い機会となった。今回の第3回 IAP 若手科学者会議 2010 における成果のひとつに、若手科学者の企画したヤングサイエンティストアンバサダープログラム（Young Scientist Ambassador Program (YSAP)）が推奨されたことが挙げられる。このプログラムは、若手科学者が国際的な科学的ギャップを、文化的、科学的、学術的、教育的交流を促進することで埋めようとしていることを奨励するものである。

・会議において日本が果たした役割

若手科学者の集いでブレーンストーミング作業や議論に活発に参加し、夏季ダボス会議の主題であった Driving Growth through Sustainability について、経済及び科学の発展と持続可能性の在り方という視点から日本社会及び科学技術の経験を踏まえて議論に貢献した。また、ヤングサイエンティストアンバサダープログラム (YSAP) の構想にも深く関与し、同プログラムを先進国・途上国双方にとって有意義なものにするにはどうしたら良いかについて世界各地から集まった若手科学者との意見交換に努めた。

・その他特筆すべき事項（共同声明や新聞等で報道されたもの等）

特になし

2. 会議の模様（会議のより詳細な状況、宿題、次のステップ、次回開催等もお書きください）

今回の会議で、若手科学者のための世界経済フォーラム、夏季ダボスを舞台にした国際会議は、三回目を数える。したがって、今回は若手科学者から、インパクトのある具体的な成果を出したいとの強い意気込みが感じられた。

限りある時間の中で、経済と科学が効率よく交流するための場として、概ね良く組織されていた。若手科学者向けのプログラムのない自由時間には、若手科学者が自ら世界経済フォーラムのセッションや会場をうまく利用し、経済と科学との交流を実現するような積極的な姿勢及び高度な社交性が期待されていたように感じた。事前にアレンジされていたプログラムの中ではグローバルヤングリーダーズと若手科学者との交流が有意義であった。グローバルヤングリーダーズとの交流は、世界各地から集まった同世代の経済・社会で成功を収めている若手との交流であり、彼らにわかりやすく自分の専門を説明し、経済・社会との接点を探ることにより、自身の研究を新たな視点で捉えなおす契機となった。

また、2010年2月にできたグローバルヤングアカデミー (GYA) の共同議長の一人である Gregory Weiss 氏が今回の会議にも若手科学者として参加しており、今回の会議に参加したメンバーが継続してグローバルヤングアカデミーにも参加し、学際交流を発展的に継続するよう呼びかけていた。

次回開催予定 2011年9月末

注：報告書作成にあたり Word 形式で作成をお願いいたします。また、会議等の写真データ（jpeg）がありましたら、ご提供願います。なお、写真データは、報告書に貼り付けるのではなく、データだけ、本報告書と一緒に送付していただ

ければ結構です。

